

大久保自治会長から
 今年度は、新型コロナウイルスの影響により自治会活動が制限されましたが、集落支援員活動事業を活用し、伝統行事に必要な浴衣などを購入することができ、自治会住民は大変喜んでます。今後も地域が明るく、少しでも暮らしやすいように自治会活動に取り組んでいきたいと思えます。

取組内容
 大久保自治会では、子ども会や親の会との話し合いを通じ、伝統行事である七夕行事に向けて、自治会員が協力して絵灯ろう作りを行ったほか、古くなった祭り衣装の浴衣や半纏を新調しました。集落に元気を与えてくれる若者や子どもたちの頑張りを応援し、伝統行事を継続していくための環境整備を図るなど、地域住民の交流や親睦を深める取り組みが地域コミュニティの活力再生に繋がっています。

大久保自治会の取り組み
 集落支援員活動事業と市の補助制度を活用した取り組みをご紹介します。

絵灯ろう作成の様子



集落支援員活動事業
 集落支援員は、自治会の現状を把握するための「状況調査」を行い、調査結果を基に自治会の現状や課題、将来の自治会像などについての「話し合い」と「活性化活動」への取り組みを支援します。小規模な自治会（50世帯未満）を中心に支援しています。事業の活用を検討される自治会はお気軽にお問い合わせください。

大久保自治会
 30世帯
 約85人

市役所

市民共動課 共動推進班
 ☎ 30-0202

世界遺産登録に向けて

大湯ストーンサークル館 ☎ 37-3822

大湯環状列石の土壌は有機物を溶かしてしまう酸性土壌のため、土器の中から人骨は見つかりませんでした。土器に入った土の成分を調べたところ、高等動物特有の脂肪酸を含んでいることが

大湯環状列石の組石の下から「土器棺」と呼ばれる土器が3点出土しています。1点は野中堂配石遺構群、2点は一本木後口配石遺構群から見つかっています。その名のとおり棺として使用されていたと考えられますが、大きさは縦50cm（推定）、横30cm程度で成人を入れるには少し小さいサイズです。縄文時代には、亡くなった人を一度埋葬し、数年後に掘り起こした骨を洗ってから土器に納め、再度地中に葬るといった「再葬」と呼ばれる文化があったと考えられています。



弥栄平 (1) 遺跡出土 土器棺 (レプリカ)
 【提供：六ヶ所村立郷土館】



大湯ストーンサークル館で展示している土器棺

わかっていきます。また、大湯環状列石と同じ縄文時代後期の青森県六ヶ所村の弥栄平 (1) 遺跡からは、10代後半の女性のほぼ全身の人骨が土器に入った状態で見つかった。縄文時代の再葬文化を裏付ける証拠と考えられています。

世界遺産

大湯環状列石

世界遺産登録に向けた取り組み

大湯環状列石の出土品②

「土器棺」



MY SOPRON LIFE

(私のショプロン生活)

ブログ公開中 <https://my-sopron-life.blogspot.com/>

日本語学指導員現地レポート
 第11代日本語学指導員 戸脇美夢さん
 三重県出身。留学経験を経て、国際教養大学専門職大学院にて日本語教育を学び、多くの異文化交流イベントの企画・運営に携わるなど、豊富な国際交流経験を活かして渡航。
 はじめまして、戸脇美夢と申します。第11代日本語学指導員として、2020年10月から、姉妹都市であるハンガリーのショプロン市に滞在し、日本語や日本文化を教えています。
 当初は不安と緊張もありましたが、ショプロン市職員の方々や日本語教室の生徒さん、ご近所の方々がとても親切にしてくださいのおかげで、こちらの生活にも慣れてきました。ショプロン市の方々とは初めこそはシャイなもの、一度仲良くなると家族のように接してくれ、どこまで日本人に相通じるものを感じます。
 ヨーロッパでは新型コロナウイルスの感染が急速に拡大しており、ハンガリーも例外ではありません。11月初旬には非常事態宣言の延長が発表されました。レストランはテイクアウトのみ、その他の店は時短営業をしており、街を歩いていると寂しさを感じることもあります。そんな中でも、家に招待してくれたり散歩に誘ってくれたりするショプロン市の方々の優しさに、



エリザベス庭園にて

日々助けられています。
 日本語教室は生徒さんの安全を考慮し、感染状況が落ち着くまでオンラインで授業を行うこととなりました。生徒募集オリエンテーションは開催できませんでしたが、代わりに自己紹介ビデオとオンライン申込書を作成しました。申込書には「日本語授業を楽しみにしていました」というコメントも参加します」というコメントもあり、生徒さんの日本語学習への熱意を感じ、コロナに負けていられないと思います。
 今後も、ショプロン市での生活や市の魅力についてご紹介していきます。ショプロン市のことを少しでも近くに感じていただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願ひします。



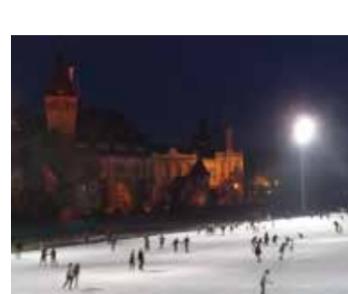
戸脇美夢さん

国際交流員ダンコー・アンドレアさんの HAJRÁKAZUNO!

※「ハイラー」はハンガリー語で「頑張れ」の意味



ハンガリーの冬の過ごし方
 ハンガリーは年間30日ほどしか雪が降りませんが、年末年始の気温は3度からマイナス3度で、風景は白くはないけれど寒いんです。特に、1月から2月にかけて2週間続く平均マイナス10度の日々は痛いほど寒いんです。
 ハンガリーは、鹿角のように山に囲まれた盆地に位置しています。が、国境近くの山まで行かなければスキーは楽しめません。ハンガリー人の多くはオーストリア、スロバキア、イタリア、フランスのスキーリゾートまで出かけてます。私は隣のオーストリアに1週間程度滞在するのが好きですが、マニアックな方は、スキー場まで片道500kmも運転し、日帰りで行くことがあります。
 しかし、スケートなら国内でも楽しめる場所が多くあります。まず、ヨーロッパ最大級のバラトン湖ですが、十和田湖と違ってかなり浅いので、適切な厚みのアイスができ、滑ることができます。もし湖を一周したいなら、ヴェレン



ヴァイダフニャド城前のスケート場 (ブダペスト市)

ツエ湖がお勧めです。湖まで行けない方は地下水や雨水、溶けた雪から自然にできる「畑のスケート場」で滑るのをよく見かけます。ブダペスト市だと、お城の周りのボート用の池がスケート場に切り替わり、週末の夕方には大勢の人が音楽を聴きながらスケートを楽しんでます。高校時代は冬の体育授業をこのスケート場でしたことがあります。他にはショッピングセンターの屋上にできるスケート場や、室内スケート場も数多くあります。
 鹿角に来て、アパートの窓からもスキー場が見えます。景色が白くなったら、「毎日のように滑りたいな!」と思っています。

フェイスブック公開中。「鹿角 CIR ダンコー・アンドレア」で検索してください。